

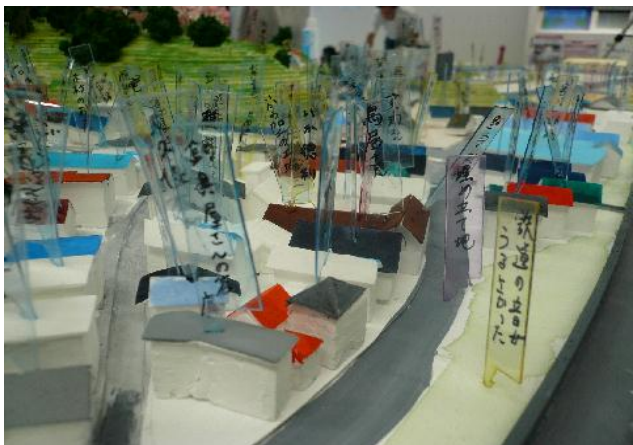
## 宮古発

### ジオラマで街並みを再現



9月3日から8日まで宮古市臨港通の「道の駅みなとオアシスみやこ(シートピアなあと)」で「記憶の街ワークショップ in 鉾ヶ崎」が開かれました。立命館大学建築学科の学生達が開いたもので、地図や写真を頼りに約2か月間かけ震災前の

宮古市鉾ヶ崎地区の街並みをジオラマで再現。訪れた住民の方から震災前の状況などの聞き取りを行いながら、自分の家に名前を書いてもらい、建物に色を塗っていきます。鉾ヶ崎地区の住民の方の半数近くが訪れたということで、その場で新たに再現した個所もあるということです。このジオラマは宮古市に寄贈され一般展示される予定です。(9/8)



## 山田発

### 霞露ヶ岳神社例大祭

三年に一度行われる伝統行事、山田町大浦の霞露ヶ岳神社(かろがだけ)神社の例大祭が震災後初めて行われました。震災により海沿いの集落が壊滅的な被害を受けたほか祭りの道具も被災しましたが、地元



住民の熱意で2010年以來の祭りの開催にこぎつけました。祭りは細い路地を縦横無尽に

走り回る神輿に、虎舞やさんさ、神楽など地元の伝統芸能が連なり集落を練り歩きました。そして家々を訪れては震災の犠牲者を追悼し、家内安全や大漁を祈っていました。

(9/8 ニュース)

## 陸前高田発

### 支援物資輸送協定

陸前高田市と宅配業者大手の「ヤマト運輸」は災害時の支援物資輸送に関する協定を結びました。協定内容は災害が発生した際、市の要請に基づきヤマト運輸が防災備蓄品の避難所への配送などに対応するというものです。陸前高田市の戸羽太市長は「プロに応援してもらうことは大きな支援につながる」と感謝しました。ヤマト運輸岩手主管支店の富田芳正支店長は「これを機に、災害時にそれぞれができる



ことを話し合っていることを話していました。大手宅配業者が県内被災地と災害時の協定を結ぶのは初めてです。

(9/9 ニュースエコー)

## 宮古発

### ようやく「サンマ」水揚げ



宮古港に昨年より18日も遅くサンマが初水揚げされました。入港したのは富山船籍の大型船第一恵比須丸で、北海道根室沖で獲れた

サンマ55トンの水揚げ。初水揚げとあつて船員に市長から記念品が贈られました。宮古市は毎年、目黒のさんま祭り(今年は9月8日開催)に水揚げされたサンマを提供していますが、今年は不漁で北海道根室市で水揚げされたサンマを市が仕入れて提供していました。(9/10 ニュースエコー)

## 大船渡発

### さんりく元気ラジオ!

今週は大船渡「FMねまらいん」の山崎素子さんが、震災から2年半経った今日、リスナーからいただいたメッセージを紹介してくれました。「なかなか復興が進まない現状が悲しい」というものや、「復興には時間がかかる。少しずつでも進んでいるのだから気長に待つ」というものなど、被災した地元ならではの様々な気持ちが聞こえてきました。山崎さんは、これからもこうしたメッセージをラジオを通して伝えていきたいと話していました。(9/11)



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中  
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>  
IBC復興支援室事務局 019-623-3122